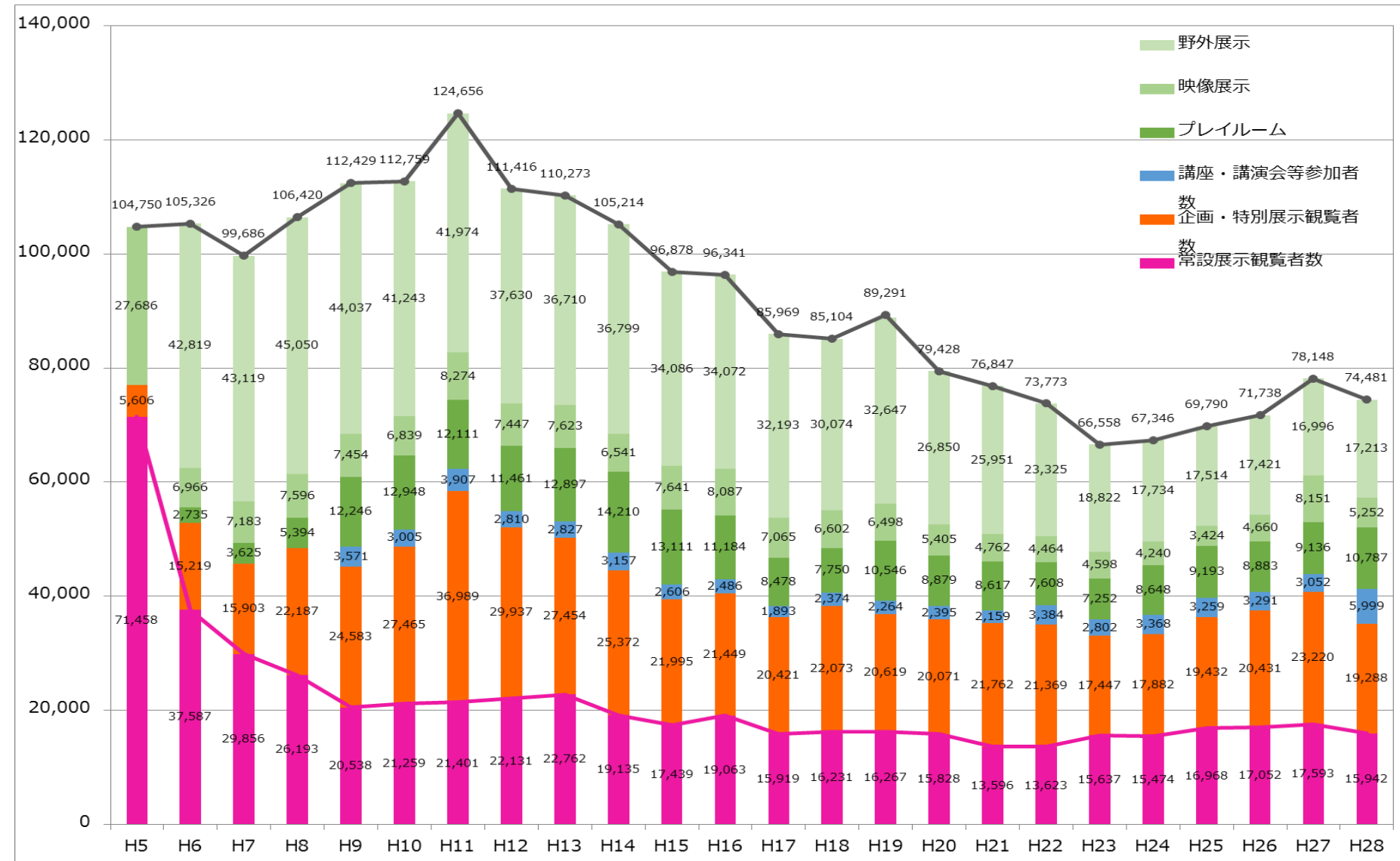


	博物館事業	現状分析	今後の課題・改善策
有料	常設展示	開館の翌年度には観覧者数が減少し、平成9年度以降は2万前後と横ばい傾向にある。平成21年度に13,000人代に落ち込んだが、平成23年度に小中学生の観覧料を無料に改訂したこともあり、それ以降は徐々にではあるが増えつつある。	開館後、展示更新をしていないため、一度見ればよいと判断されており、常設展示の観覧を主目的に利用するケースは少ない。 固定化しない、いつも新鮮な常設展示になり得るよう、刷新が必要。
	企画展示	平成8年度以降は、ほぼ2万人前後の利用者を獲得できているが、平成12年度から企画展の本数と予算が減少したため、利用者数が少々落ち込んでしまっている。	企画展の観覧者が多ければ、利用者総数もあがる傾向が見られることから、利用者数拡大をめざすためには、集客力ある企画展が開催できる予算措置が必要。
無料	講座・講演会等	平成22年度以降、講座数の増加により、平均して3000人前後の参加者を確保している。	館外（学校・町会等）での活動も始めており、今後利用者数は増える可能性大。現状を維持しつつ、利用拡大に努力。
	プレイルーム	平成9～16年度までは1万人以上を超えているが、平成17年度以降は8000人前後にとどまっている。常設展示利用者の減少が影響している可能性がある。	平成27年度から、気軽に参加できるプログラム（ぬり絵、縄文衣装体験等）を開始。利用を拡大し、満足度の高いプログラムの開発を進め、リピーターの確保に努める。
	映像展示	平成19年度までは6千～7千人台で一定した利用者数を確保しているが、平成20年度以降は4千人前後に推移。テーマ設定が企画展等と連動しているため、観覧者数の影響を受けている可能性がある。	映像ソフトが豊富なので、それを生かした活動を今後も展開。ただし、コンテンツの価値が認識されていない。認知度を高め、館外での利用拡大もめざし、学習資源として有効活用できる体制を整備。
	野外展示	平成19年度までは3万人以上の利用があったが、団体利用が減少したことにより、利用者数が減っている。	公園と一体となった利用プログラムを立案し、遠足利用や校外学習の場としての利用拡大をめざす。そのためには、学校、公園や旅行会社との連携・協働体制の強化も必要。

開館からの利用者数の推移



利用者拡大に向けた方策（案）

ハード

常設展示：常に新鮮な体験を提供できる展示に
改修あるいはリニューアル
次世代の子どもが学べる歴史展示

ソフト

集客力のある企画展の開催（予算確保）
館外での活動展開（講演・映像貸出等）
体験プログラムの拡充（リピーター確保）
学校団体の利用メニューの整備（協働事業）

H5~8 講座・講演会等の参加者数不明
H5 無料空間の利用者数の内訳不明

SWOT分析



今後の成長策・改善策

内 部 要 因 ・ 内 部 環 境 分 析	強み strengths	弱み weakness
	<ul style="list-style-type: none"> ●市の直営なので経営は安定している ●歴史・民俗・考古の3分野の学芸員がバランスよく7名配置されている ●学芸員以外にも利用者と接するスタッフがいる ●多くの体験教室や講座を開催している ●縄文遺跡の豊かな出土資料（重要文化財を含む）がある ●水戸街道や牧などに関する近世史料がある ●東京に近いので情報が得やすく、他館との交流がしやすい ●公園利用者が博物館も利用（家族連れが立ち寄り） ●公園内の野外環境、を活用したプログラムを提供 ●周辺に文化施設が隣接している ●小学生の団体利用が多い ●柏市の小学校も利用している ●高齢者の利用も多い ●ミュージアムシアターで投影できる映像ソフトを多く所有しているの で、毎月ソフトを変えることが可能 ●シルクロード関係の資料がある ●喫茶コーナーの料理がおいしい 	<ul style="list-style-type: none"> ●新規事業への予算措置がない ●施設が老朽化（開館後23年経過） ●常設展示が開館以降、更新されていない ●市民や他の施設、町会、商店会等との協働体制が弱い ●友の会以外の歴史ファンのグループの交流が希薄 ●市外、県外の博物館との共同事業が少ない ●観光資源・史跡整備との連携が弱い ●学術的な専門的機関として活用されていない ●博物館が有するコンテンツが庁内で有効活用されていない ●館蔵資料の情報が原則非公開で、市民が利用しにくい ●博物館からの情報発信力が弱い ●ホームページは市の規制が強く、改編できない ●中学生・高校生・大学生の利用が少ない ●ファミリー層に休日を過ごす場所として認識されていない ●専用駐車場がない、公園駐車場料金500円が不評 ●小中学生は無料(4年前)だが、高校生以上は有料（常設300円、企画展300円）のため、家族で展示を見るのを妨げている ●周辺の公立博物館は松戸市博よりも規模が小さいかが無料、相対的に割高感あり ●身体障害者、70歳以上は市内在住者のみ無料、料金体系の見直しが必要 ●最寄り駅からやや遠い（徒歩15分） ●公園内に博物館があることを知らない人がいる ●開館時に比べると市内部の評価が低下傾向にある ●ミュージアムショップの品揃えが少ない ●上野に近いので、都内の博物館と比べると存在感が薄い
外 部 要 因 ・ 外 部 環 境 分 析	機会 opportunities	脅威 threats
	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもの学習のためにお金をかける・時間を割く ■高齢化（市民参加による博物館運営の機会増大） ■松戸市の人口は横ばいだが、世帯数は増えている（子育て層の転入） ■レジャー志向：近場で安く済ませる傾向「安・近・短」 ■社会貢献志向：企業・大学・高齢者が活動の場を求めている、パートナーを求めている ■地域愛：地域を盛り上げたいと考える市民（若い世代も含めて）が増えている ■学習指導要領で博物館利用を推奨 ■小学校で「昔の暮らし」の単元がある ■近隣の柏市に博物館施設がない ■近隣市の類似施設が乏少状況（鎌ヶ谷市は企画展示室がないなど） ■松戸市は、文化・歴史（観光）の魅力PRに重点を置いている ■博物館が文化資源の掘り起こしの中核になり得る可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> ■少子化 ■高齢社会 ■消費税アップによって各家庭でレジャー費用削減の可能性 ■地方自治体の財政難 ■緑環境の減少 ■地球温暖化による自然災害の多発 ■巨大地震 ■戸定歴史館は観光資源として価値が庁内で認識されているが、博物館は学術的文化施設としての存在意義が認められていない

強み×機会 成長戦略

学芸員やスタッフから、質の高い博物館体験を提供
 松戸の歴史を体験しつつ学べる場
 まちづくりを学術的にサポート
 公園利用者の博物館利用拡大
 文化的価値の高い資料やコンテンツの有効活用 等

↓

博物館の価値認識を高め、利用拡大を図るためには
 情報発信できるしくみや
 博物館の資源を市民が有効利用できるしくみが必要

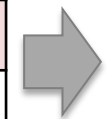
弱み×機会 改善戦略

子育て世代向けのプログラムの開発・拡充
 学校団体向けのプログラム拡充
 子どもが楽しく歴史学習できる場
 常設展示のリニューアル
 松戸の歴史資源の学術的研究機関としての機能強化
 学習支援のためのデジタルアーカイブの構築（協働）
 市民や市の機関との連携・協働体制の強化
 協働事業の活性化
 家族連れが活用しやすい料金体系
 高齢者・障害のある方が利用しやすい料金体系
 博物館利用者に向けた公園駐車場料金の減免
 駅からのアクセスの改善
 駐車場からの案内サインの改善 等

↓

子育て世代・家族連れ・学校団体が利用しやすい施設
 に改善していくためには、
 博物館の現場だけでなく、市全体での取組が必要

<p>松戸市総合計画・後期基本計画 2011 →第6次実施計画2016（H28～32）</p> <p>●後期基本計画で定めるめざした未来像 自分たちのまちは自分たちでつくる元気な街 住んでいるのが誇らしく思える街 みんなの協力で賑わいのある街</p> <p>第3節 次代を育む文化・教育環境の創造</p> <p>すべての市民が生涯にわたって主体的に文化、芸術、スポーツなどを学習できるよう環境を整備し、国際的な広い視野と平和を愛する心が生まれ、郷土に誇りと愛着がもてるまちづくりを進めます。また、次代の担い手である子どもたちが、個性や創造性を備えた自立した人間として成長できるよう、家庭や地域社会とともに子どもたちを育てていきます。</p> <p>政策10</p> <p>国際的な広い視野と平和を愛する心が生まれ、松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにします</p> <p>●めざしたい将来像</p> <p>平和を大切に、松戸を愛する人を増やしたために、日本人も外国人も皆が松戸の歴史や文化・伝統が身近に感じられる工夫をこらして、誰もが誇りの持てる“ふるさと松戸”を実現します。</p> <p>●施策の展開方向</p> <p>①固有の文化・伝統に触れることができるようにします</p> <p>郷土の歴史や伝統・文化を市民に知ってもらうため、文化財の基礎調査を進め、標識柱や案内板を整備します。市立博物館については、「見て・触れて・身体で感じる」とする基本コンセプトは守りつつ、資料の展示方法の改善や展示替えを行い、リピーターにも新しい発見ができるよう創意工夫を凝らして いきます。戸定邸及び戸定歴史館については、隣接する千葉大学松戸キャンパスの緑、イタリア式庭園、フランス式庭園などとの連携も視野に入れつつ、戸定が丘緑地の文化的資産を市民と協働して活用し、若手芸術家などとの連携による芸術の創造なども図りながら、より複合的に魅力を高めていきます。</p> <p>●施策を推進していく上での課題</p> <p>歴史文化の保存活用を推進していくためには、地域に愛着や誇りを認識する機会を増やしていく必要があります。市民、地域で活動する団体、企業と連携し、文化的価値を次世代へ伝えていくこと、周辺環境に配慮しながら、地域のアイデンティティーの活性化へつなげていくことが課題です。</p> <p>特筆すべき松戸の強み 郷土の歴史や文化の保持、継承、郷土を知るための普及活動や情報発信ができる博物館と戸定歴史館がある！</p>



**松戸市博物館に
求められている役割
期待に応えるために変わります！**

**松戸ブランドの価値創出
松戸の歴史・文化を
誇らしく思える博物館**

松戸の歴史・文化を保存・継承し、価値発信し、郷土を学ぶことができる展示・普及活動を行う。松戸の3万年の歴史を楽しく学べる場。

**みんなが利用できる
情報基盤を構築
松戸の歴史・文化の
学術的なデジタル
アーカイブセンター**

学術的な情報やコンテンツを博物館が提供し構築。子どもも大人も学習に活用でき、松戸市のまちづくりにも活用できる。次代を育む文化・教育環境の創造の基盤として、市民が有効活用。文化財の保護・活用の推進。

**協働のまちづくりの担い手育成
松戸の歴史・文化を
次世代に伝える人材育成拠点**

学習成果を生かせる場として、自己実現を実感できる場、社会貢献の場として、博物館を市民に開放。ガイド育成や講師派遣を積極的に行い、まちづくりの担い手を育成。また、様々な担い手が集える交流の場としても活用。

<p>松戸市社会教育計画 2015</p> <p>基本理念 自ら学び 学び合う、人と人がつながるまち ～学習成果を生かすことができるまち・松戸を目指して～</p> <p>社会教育の課題 4.社会教育施設の整備・充実 ④博物館：社会教育の中心施設として博物館は、市民が地域の歴史、文化、芸術により一層う関心が高められる機会を提供できるよう、本市の文化資源を生かした博物館の企画展等を更に充実することが課題となっています。</p> <p>●基本目標1 市民の多様なニーズに応え、地域の課題や歴史・文化・伝統に気づく学習機会の充実 施策(4) 松戸の歴史・文化・伝統を学習する活動の推進：博物館展示事業、博物館学習支援事業、博物館歴史資産収集調査事業、市史編さん事業</p> <p>●基本目標2 市民を惹きつけ、広く行き渡る情報提供・相談 施策(1) 情報の周知、情報を得る方策への配慮：広報活動の推進、行事内容に即した対象者への情報発信の強化 施策(3) 学習相談体制の充実</p> <p>●基本目標3 学習者の学習成果を地域に生かす仕組みづくり 施策(2) 施設の整備及び施設連携や施設機能の活用方法の周知などによる利用促進：博物館管理運営事業（市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するために設置した施設であり、利用者が安全で快適な環境で学習できるよう更なる利用の促進を図る） 施策(3) 学習意欲を喚起し、自己実現を実感できるステージへの誘導：博物館友の会支援・協働事業</p>
--

<p>協働のまちづくり条例 2007 → 松戸市協働推進計画 2012</p> <p>3つの基本方針 協働のまちづくりの担い手育成 多様な主体同士の協働を促進 施策の推進体制を整備</p>

<p>松戸市文化芸術振興基本方針 2014</p> <p>基本方針3 郷土の歴史・伝統文化遺産を次世代に引き継ぎます</p> <p>3-1 文化財の保護と活用：文化財マップ、文化財の説明板・標柱の設置・補修、市史の編纂</p> <p>3-2 伝統文化の伝承への支援：学校への学芸員の派遣、学芸員によるシティガイド等のスキルアップ事業の実施、デジタルアーカイブの構築事業の推進</p>
--

